

Workstationで利用可能な統合

概要

統合により、ご利用の仕事用アプリがWorkstationに接続されるため、組織の技術スタックとの継続的なやり取りが可能になります。

アプリを統合すると、コンテンツを検索するためにアプリを頻繁に切り替える必要がなくなるため、デジタルの導入が促進されます。Workstationで検索するだけで、統合されたアプリすべてに関連するコンテンツのすべてが表示されます。

詳細

Workstationでアプリを接続するには、設定ページ [統合タブ](#)に移動します

アプリを接続すると、次の機能のいずれか、あるいは両方が追加されます。

1. エンタープライズ検索
2. ホームページウィジェット

エンタープライズ検索

Workstationのエンタープライズ検索を使用すると、ユーザーは単一の統一した検索を使用してアプリケーションやリソースを発見できます。

エンタープライズ検索は、お客様のビジネスを以下の点で支援します。

- **迅速かつ効率的な知識発見を提供することで、複数の異なるデータソースから検索する必要性をなくします。**
- **AIを活用しパーソナライズされた検索結果を生成し、ユーザーがアプリの種類やファイルの種類ごとにフィルタリングできます。**
- **ビジネスのセキュリティとエンドユーザーのプライバシーを保護し、インデックス作成をゼロにしてアクセス権限を尊重します。**

[エンタープライズ検索の詳細をご覧ください](#)

ホームページウィジェット

一部のアプリには、Workstationのホームページに追加されるウィジェットがあります。ウィジェットは、Workstation内で直接プロセスを開始し、よく使用されるツールやリソースへのアクセスを合理化することで、従業員の生産性を向上します。

ウィジェットは、次の機能を提供します：

- よく使用するアプリとファイル
- 統合アプリで重要な情報とタスクを表示
- ドラッグ&ドロップが簡単なメニューのあるカスタマイズ可能なワークスペース

[ホームページウィジェットの詳細をご覧ください](#)

複数のドメイン

統合複数ドメインでは、ワークステーションで同じ統合の複数のテナントを使用できます。検索またはウィジェットとして使用できます。

これは、組織がサービスの異なるインスタンスで動作する場合、たとえばZendesk[®]それらを簡単に切り替えて、関連するオーディエンスのためにエクスペリエンスを調整できることを意味します。セグメンテーションで、各インスタンスが正しく設定され、混乱を避けることができます

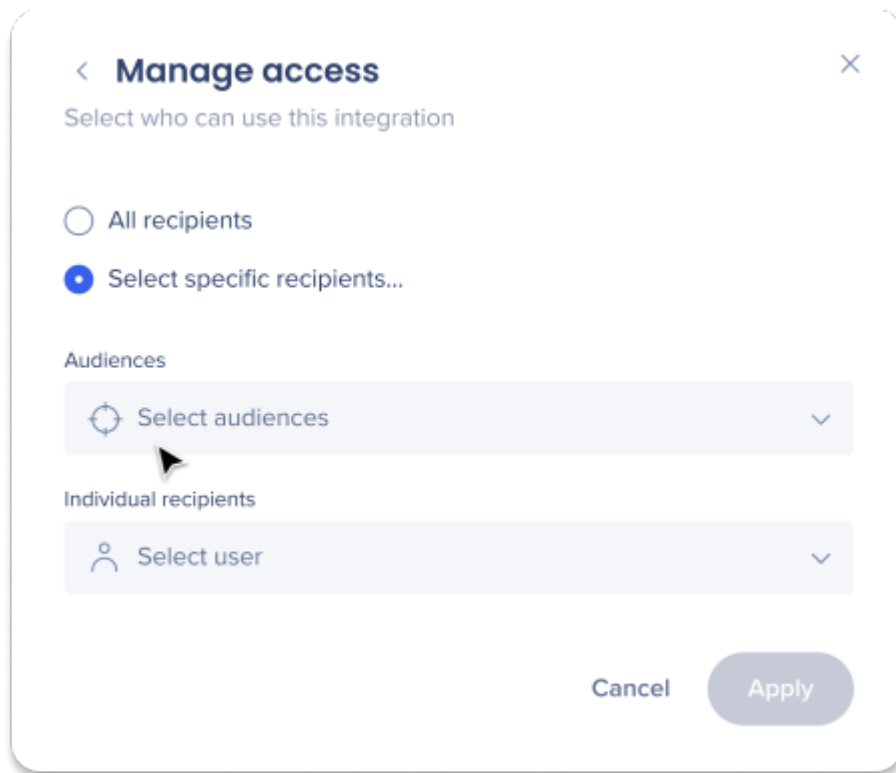
セグメンテーション

統合は、すべてのエンドユーザーで有効になるのではなく、ユーザーとオーディエンスのサブセットにセグメント化されます。この機能は、統合プロセスを合理化し、ユーザーが作業関連の統合のみを使用していることを確認するのに役立ちます。

Workstationの統合をセグメント化するには：

1. コンソールで[\[Workstation統合\]ページ](#)に移動します
2. セグメント化したい統合で、**[すべてのボタン]**をクリックします
3. アクセスの管理ポップアップで**[特定の受信者を選択]**をクリックします
4. ドロップダウンからオーディエンスまたは個々のユーザーを選択し、統合を使用できるユーザーを選びます
5. 適用をクリック





利用可能な統合

利用可能な統合表には、組織のWorkstationで有効にするために利用可能な統合が一覧表示されます。Workstationコンソールで「Integration（統合）」を有効にすることができます。

統合が有効になると、承認の種類に応じて、アプリはユーザーのWorkstationに接続できるようになります。

デスクトップ列またはモバイル列

この列は、統合がデスクトップ、モバイルWorkstationまたはその両方で利用可能かどうかを示します。

検索列またはウィジェット列

一部のアプリは、Workstationのエンタープライズ検索にのみ統合されていますが、ホームページウィジェットのあるアプリもあります。検索とウィジェットの両方があるアプリもあります！この列に「両方（デスクトップウィジェットのみ）」と表示されている場合、統合の検索機能はデスクトップとモバイルの両方で利用できますが、ホームページウィジェットがあるのはデスクトップのWorkstationのみです。

要設定

この列は、ユーザーがこのアプリを接続できるようになる前に、Workstationコンソールの統合ページで完了する必要がある手順がいくつかあることを示します。

承認タイプ

この列は、利用可能な2つの承認タイプのうち、どちらが存在するかを示します。Workstationは、統合を接続する際に、2種類のセキュリティ基準を使用します。

1. **APIキー**：すべてのユーザー向けのアプリケーションに対する同じ許可レベル。統合は、WalkMeコンソールで有効になると、デフォルトで自動的に接続されます。[コンソールの統合ページの詳細をご覧ください](#)
2. **OAuth2.0** 接続された実際のアプリケーションにおけるユーザーの許可に応じた権限レベル。通常、公開データ/管理権限のないデータ（ナレッジベースなど）にアクセスする際に使用されます。統合には、管理者がコンソールでそれを有効にした後、ユーザーの同意（アプリを手動で接続）を得ることが必要です。
 - OAuthトークンは、サードパーティの設定または構成に基いて、一定期間を過ぎると期限切れになることがあります。トークンが無効になるとWorkstationに警告が表示され、再接続するように指示されます。

[Workstation統合セキュリティの詳細をご覧ください](#)

利用可能な統合表

アプリ	デスクトップまたはモバイル	検索またはウィジェット	要設定	承認タイプ
Bingカスタム検索	デスクトップのみ	検索のみ	はい	APIキー
Box	両方	デスクトップウィジェット	いいえ	OAuth2.0
OpenAI	デスクトップのみ	デスクトップウィジェット	はい	APIキー
Confluenceクラウド	両方	検索のみ	はい	OAuth2.0
Confluenceサーバー	両方	検索のみ	はい	OAuth2.0
Coveo	デスクトップのみ	検索のみ	はい	APIキー
DocuSign	両方	両方（デスクトップウィジェットのみ）	いいえ	OAuth2.0
Drupal	デスクトップのみ	検索のみ	はい	APIキー

GitHub	両方	検索のみ	いいえ	OAuth2.0
Googleカレンダー	両方	デスクトップウィジェット	いいえ	OAuth2.0
Googleカスタム検索	デスクトップのみ	検索のみ	はい	APIキー
Googleドライブ	両方	検索のみ	いいえ	OAuth2.0
HubSpot	両方	検索のみ	いいえ	OAuth2.0
統合検索API	デスクトップのみ	検索のみ	はい	APIキー
Ivanti	両方	検索のみ	はい	APIキー
Jiraクラウド	両方	両方（デスクトップウィジェットののみ）	いいえ	OAuth2.0
NetSuite	デスクトップのみ	検索のみ	はい	OAuth2.0
Okta	両方	両方	はい	OAuth2.0
OneDrive	両方	検索のみ	はい	OAuth2.0
Outlookカレンダー	デスクトップのみ	デスクトップウィジェット	はい	OAuth2.0
Pocket	両方	両方（デスクトップウィジェットののみ）	いいえ	OAuth2.0
Salesforce	両方	デスクトップウィジェット	はい	OAuth2.0
Salesforceナレッジ	デスクトップのみ	検索のみ	はい	OAuth2.0
SAP Concur	デスクトップのみ	デスクトップウィジェット	はい	OAuth2.0
ServiceNow	両方	両方（デスクトップウィジェットののみ）	はい	OAuth2.0

Sharepoint	両方	検索のみ	はい	OAuth2.0
Slack	両方	検索のみ	いいえ	OAuth2.0
Workday	デスクトップのみ	検索のみ	はい	OAuth2.0
Zendesk	両方	両方	はい	OAuth2.0